

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	百貨店（営業担当）	・客の動向を見ていると、商店街への客の動きは徐々に活発になってきており、少しずつ景気は回復する。
		百貨店（営業担当）	・婦人関連ファッション商品が苦戦しているが、ブランド商品、リビング、ダイニング等が健闘し、前年の売上を確保する商品群が増加した。また、中元商戦も前年に比べ好調に推移している。
		家電量販店（営業担当）	・エアコンの売上増加が、エアコン以外の商品にも良い影響をもたらしている。長期的なものとは言えないが、今後の動きに期待できる。
		観光名所（職員）	・韓国や中国などアジア圏からの観光客が増えている。
	変わらない	一般小売店〔生花〕（経営者）	・例年であれば、そろそろ中元の問い合わせや下見が始まるが、今年は客足が中元に向いていない。また、水不足になれば、売上はあまり期待できない。
		スーパー（店長）	・アイスクリームも思ったほど売れず、夏でも野菜は十分にあって価格は安定している。もう一段暑くならないと、売上は伸びない。
		スーパー（予算担当）	・断水の危険性があるので、買い控えの傾向が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・40才以上のミセス層が前年並みの売上を維持する反面、30才以下のヤング・キャリア層の購買力が低下してきており、全体としては前年を下回る。
		乗用車販売店（従業員）	・かつては夏のボーナス商戦として自動車業界も活発に動いていたが、バブル以降自動車の台替時期がボーナス時期とは限らなくなった。客は7～8月も暑さ対策に追われ、自動車へ目が向かない。振り向いてもらえる新型車もない。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリンの価格上昇が続いている状況では、新車販売市場の回復は難しい。
		乗用車販売店（営業担当）	・愛媛県下の軽市場が、この1～6月、連続で前年割れを起こしている。当社も、4～5月は極端に悪く、なんとか6月は前年を少し上回った。全体的に、軽自動車、また登録車も含めて、自動車に関する景気は良くない。
		住関連専門店（経営者）	・販売量・個人消費がまだまだ伸びていない。
		都市型ホテル（経営者）	・来客数、予約状況等、過去3か月間はあまり変化がなく、景気はこのまま停滞する。
		タクシー運転手	・6月は、株主総会・ボーナス月等でそこそこ客が動くが、今年は、売上・乗客数が前年に比べ半減した。
観光名所（経営者）	・予約は横ばいである。		
ゴルフ場（従業員）	・来場者・予約共に横ばい状態が続いている。		
美容室（経営者）	・オーバーストアーが続いているため、客の分散が続いている。		
やや悪くなる	百貨店（売場担当）	・地元有力建設会社の指名停止や解散など暗い話題がほとんどであり、販売状況も、高額品や定価販売商品の売上が低迷している。	
	スーパー（店長）	・6月給与の税金が増え手取り額が減っているため、客も従業員も節約に向かっている。	
	スーパー（統括担当）	・定率減税の廃止等に伴う手取り減が、消費者の暮らし、あるいは心理に非常にマイナスに働いている。	
	観光型旅館（経営者）	・参議院選挙の影響などもあり、7月は例年より予約状況が大変悪い。	
	タクシー運転手	・これから夏に向かい、四国八十八ヶ所参りが大きく減ると、街中のタクシーが増えて、ますます景気は悪くなる。また、水不足になり夜間断水になるとますます夜は飲みに出ず、早く帰る人が増えて景気は悪くなる。	
	通信会社（支店長）	・客の反応が鈍い。また、夜の飲食関係の客も少なく活気が無い。	
	設計事務所（所長）	・年数の経過した賃貸マンションに非常に空きが増え、オーナーが困っている。	
	設計事務所（職員）	・利益率の低下や厳しい労働環境の改善の見通しが立たない。	
悪くなる	衣料品専門店（経営者）	・市民税が増税になり、買い控えしている。	
企業	良くなる	-	-

動向 関連	やや良くなる	通信業（営業担当）	・ボーナス時期とは関係なく個人消費が増え、高額商品、高機能商品をこたわって購入する客が増えていると、大型スーパー、家電量販店のマネージャーから聞く機会が多くなった。
		広告代理店（経営者）	・相変わらずフリーペーパーの受注が好調で、既存商材もページ数増、カラー化などの上向き材料が多い。しかしながら、資材・補材の値上がりが見える。
	変わらない	一般機械器具製造業（経理担当）	・関東・名古屋・阪神の大都市圏は相変わらずクレーンの稼働率は高く、特に阪神は大型プロジェクトが次々と発表されている。今後しばらく、この状態に変化は無い。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・官公庁の入札が始まるが、台数はあまり望めない。一番心配な点は、ステンレスの部材が7月1日より値上げされる点である。製品価格への転嫁が困難で、競合他社との間で苦戦が強いられる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・製紙会社の設備投資の仕事が入ってくることから、ほかで大きく減少した穴埋めができることから、変わらない。
		建設業（総務担当）	・銀行の第一次金利上げが一段落したが、引き続き、第二次の引上げが見込まれ、収益は悪化する。
	やや悪くなる	金融業（融資担当）	・今後も建設土木業のはたんが見込まれ、失業者も増加する。また、県の経済状況が悪化していることから、若者の県外への流出が続き、明るさが見えてこない。
不動産業（経営者）		・同業者も含め、最近の市況はかなり厳しい。客も減少し、また、不動産に関して慎重になっている。	
悪くなる	輸送業（役員）	・第1次産品や、原料、資材を取り扱う地域において、渇水による大幅な生産調整が大きく響き、夏以降にも影響が懸念される。	
雇用 関連	良くなる やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・転職市場はまだまだ活性化の余地がある。幹部候補になりうる人材は各社需要があるが、採用難易度も高い。
		民間職業紹介機関（所長）	・全業種で見た場合、中途採用の意欲は高く、また新卒採用も積極的である。新卒採用は充足されていない企業が多く、特に工学部・理学部系の新卒者を充足出来ていない企業が多い。
	変わらない	人材派遣会社（支店長）	・新卒の定期採用後、企業に充足感があり、派遣の依頼が落ち着いている。
		人材派遣会社（支店長）	・2～3か月先、特にこの直近1か月、水不足により時間断水や給水の動きになると、雇用側、働く側のマインドもかなり冷めてくるという懸念がある。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・求人内容や求人数の増減状況にあまり変化がない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は前年に比べ微増傾向ではあるものの、今後、原油高というマイナスの要因もあり、大幅な求人増はなく、景気は変わらない。
	やや悪くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・就職活動がやや鈍く、期待はされるものの、しばらくは現状維持である。
悪くなる	職業安定所（職員）	・就職者数も減り続けており、大型の破産事業所もあるため、周囲への影響も続く。	